

第28回

# 斎王まつり

語り継ぐいにしへのロマン



平成22年

6/5(土) (雨天の場合中止)

前夜祭 18時～21時

斎王市 15時～21時

斎宮歴史博物館会場  
開会式・禊の儀・斎王他出演者披露

6/6(日) (雨天の場合中止)

斎王群行 13時～15時

上園芝生広場～斎宮歴史博物館

斎王市

アトラクション

10時～15時

主催 斎王まつり実行委員会  
フォトコンテスト作品募集

三重県明和町





Mayfield Susannah  
(鈴鹿市)



江崎 和季  
(津市)



桑原 香  
(鈴鹿市)



村瀬 結比  
(志摩市)

舞人



北村 通子  
(伊勢市)



坂谷 有絵  
(伊勢市)



執行 ひろみ  
(鈴鹿市)



須崎 恵美  
(多気町)

舞人



石川 綾美  
(松阪市松江小)



瀬田 萌  
(明和町)

斎王

配役



植松 果穂  
(岡山市)



稲垣 明香  
(春日井市)



岡森 義貴  
(名古屋市)



鈴木 直幸  
(四日市市)

検非違使



倉谷 美香  
(鈴鹿市)

近衛使



川口 茉莉  
(名古屋市)



小田 真麻  
(志摩市)



加藤 江理  
(大阪市)



佐田千奈美  
(明和町)

内侍



園田 萌  
(津市)

女別当



松本 直也  
(伊勢市)



Jake Jung  
(明和町)



辻 泰  
(鈴鹿市)



奥田 勲  
(四日市市)

風流傘



廣野 真智子  
(津山市)



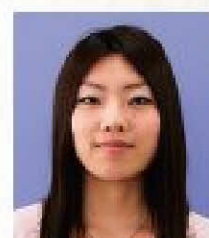
樋口 満里奈  
(松阪市)



加藤 ゆい  
(四日市市)



乾 友里  
(大阪市)



中北 沙良  
(伊勢市)

命婦



奥山 并代  
(多気町)



石川 愛  
(松阪市)



村上 恵里  
(津市)

女孺



石田 桂  
(横浜市)



成瀬 彩  
(鳥羽市)

采女



三好 美香  
(津市)



山本 奈岐穂  
(大阪市)

舞人



田端 裕子  
(津市)



三橋 絵理子  
(伊勢市)



井端 麻衣  
(津市)

女孺





# 童・童女 出演者 (順不同)



辻 佳歩  
吉田 梨花  
三谷 莉子  
市野 梨央  
市野 音衣  
児島 愛莉  
中川 結加里



西口 空  
中島 歌音  
伊藤 好花  
浅井 優月  
小竹 咲  
田中 杏奈  
北吉 美優



西村 咲良  
清水 悠衣  
谷田 瑞季  
小宮 奈桜  
福谷 光夏  
佐田 舞葉  
佐田 奈々美



下田 萌華  
米川 佳茄子  
石川 綾美  
山口 真耶  
前田 奈美  
奥村 友香  
樋口 葵



中野 真果  
石神 芹奈  
三宅 亜美  
濱口 萌音  
黒坂 麻由  
川上 詩乃  
小田 朱里



鈴木 心  
鈴木 紅葉  
村田 陽菜  
長澤 莉乃  
阪井 真有  
岡本 風布  
中野 木樨



尾西 七海



奥田 晶貴



古市 拓巳



島田 香音



尾西 真珠



喜多 美稀



中瀬 更紗



堀井 梨沙  
奥田 侑姫  
野呂 歩未  
鈴木 勝己  
小森 万里奈

## 斎王まつり二十八回を迎える

斎王まつり実行委員会 広報班

斎王まつりも二十八回を数え、昭和五十八年地元婦人会有志の「お祭り」からはじまり内容も随分と変わりました。

今や地元の「お祭り」ではなく全国区の「お祭り」と言っても過言ではありません。

おかげさまで斎王役も第二十六代となり、全国からのご応募をいただくようになりました。

斎王まつり実行委員会はすべてボランティアで構成されております。

皆が本業を持ちながらの企画・会場設営そして当日の運営を行います。

サブテーマ「語り継ぐ いにしえのロマン」と題し奮闘しておりますが、実行委員会の精一杯の「こころのおもてなし」をお楽しみください。

今後もこの「まつり」を益々充実してまいりたいと思いますので、皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。

6/5(土)

斎王市

15:00～21:00

前夜祭

18:00～21:00

斎宮歴史博物館会場

開会式

禊の儀

斎王他出演者披露

雨天の場合中止

斎王市

アトラクション

雨天の場合中止

10:00～15:00

斎宮歴史博物館会場

ステージで

各種アトラクション

斎王群行

13:00～15:00(雨天中止)

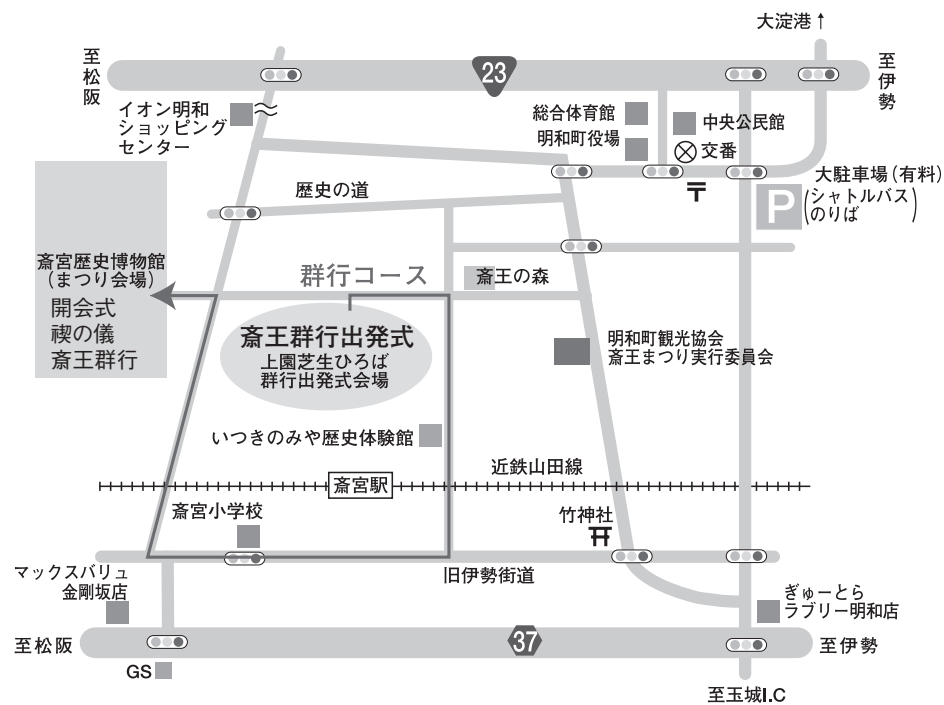
上園芝生ひろば(斎宮駅北)

から斎宮歴史博物館まで

斎王群行を再現

## もくじ

斎王まつり配役……………	2
斎王まつり童・童女出演者……………	4
斎宮の歴史語り(その四)……………	6
斎宮跡の発掘調査……………	8
御黛(炭)山跡……………	10
斎王まつり実行委員のページ…	12
図書の紹介/実行委員会組織体制…	18
斎王まつり実行委員会活動……………	19
群行衣裳……………	20
フォトコンテスト……………	22
第27回斎王まつりの思い出…	24









平成21年度の

# 斎宮跡の発掘調査



平成21年度 史跡斎宮跡発掘調査区位置図

史跡斎宮跡の発掘調査は、開始から四〇年の節目を迎えることができました。昨年度の調査では、平安時代の斎宮跡の中枢部と考えられる「柳原区画」と、その周辺部でおおよそ一、六〇〇平方メートルの発掘調査を行いました。

## 「柳原区画」の調査

柳原区画では、第一五九次（南地区）と第一六五次調査を行いました。  
第一五九次調査区は、柳原区画に南東隅に位置します。調査の結果、区画の南辺道路と両側の側溝が見つかり、区画の南辺ラインを確定することができました。このほか、斎宮跡を貫く古代伊勢道（奈良古道）、平安時代前期（九世紀）の掘立柱建物や土坑、平安時代後期以降（一〇世紀後半から一二世紀）の掘立柱建物などが確認されました。  
第一六五次調査は、区画内の建物配置や変遷について詳細に検討するための補足調査で、二箇所で実施しました。

第一六五・一次調査は、これまでの調査で掘立柱建物が密集して見つかった区画南東部にわずかに残された未調査部分で行いました。たくさんの柱穴が見つかり、

これまで部分的にしかわかっていなかった建物の全体の姿を明らかにすることができました。また、新たな掘立柱建物も確認できました。

第一六五・二次調査は、区画の西部で見つかったいる東南北の三方向に庇をもつ大型の掘立柱建物S B一〇八〇の西側の庇が本当にないのかどうかを確認するために調査を行いました。調査の結果、柱があるだろうと想定された場所に柱穴を確認することはできず、S B一〇八〇は西側に庇をもたない三面庇付建物であることが確定しました。

## 区画道路の調査

柳原区画に隣接する牛葉西区画と下園東区画で、方格地割の区画道路の実態解明を目的として第一六四次・第一六六次調査を行いました。

牛葉西区画の北東隅で行った第一六四次調査では、区画の北辺道路の南側溝を確認しました。しかしながら、東辺道路の西側溝は後世の土取りによってすでに削平されており、確認することはできませんでした。

第一六六次調査は、柳原区画の北側の下園

東区画で行いました。調査地は周辺より一段低く、湿地状になっており、湧水によって調査は大変困難なものでした。調査の結果、調査区のひとつ全域が土取りによって削平されており遺構は確認できませんでしたが、調査区南端でわずかに残った区画道路の南側溝の一部を確認することができました。

## 牛葉東区画の調査

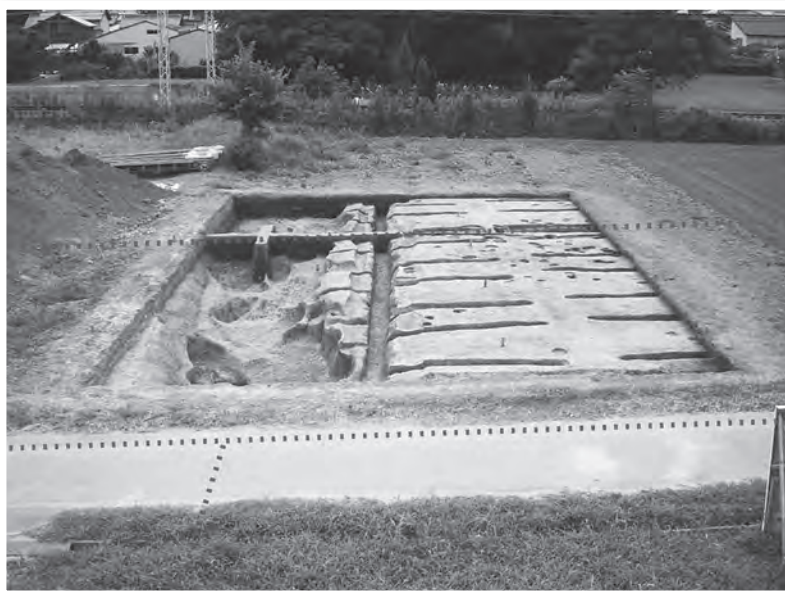
柳原区画の南側に位置する牛葉東区画は、斎王の居所であった「内院」と考えられています。第一六三次調査は、牛葉東区画の北東隅で行いました。地表面からたくさんの土器が見えていましたが、調査を進めるにつれ大量の土器が出土しました。調査の結果、ここに大きな溝があり、その溝

## 今後の展望

平成一九年度から行ってきた柳原区画の実態解明のための発掘調査は、今年度で終了しました。これまでの調査成果をもとに、平成二二年度からは柳原区画を中心と

した地区で、往時の斎宮跡の姿を体感できるあらたな拠点づくりが始まります。他に例を見ない特異な性格をもつ斎宮跡の価値や魅力をさらに向上させ、だれもが身近に感じられる開かれた斎宮跡を、今後も皆さんとともに創りあげていきたいと思っています。

（斎宮歴史博物館 技師 角正芳浩）



第164次 調査区全景



第166次 区画道路側溝



第163次 調査大量の土器



# 御黛（炭）山跡

中部ペンクラブ会員

秋野信子

女性の都であった齋宮周辺には、おもしろい伝承が残っている。その一つが、御黛（炭）山跡です。黛・眉墨は広辞苑によると、①眉を書く墨②眉を墨で書くこと。また、その書いた眉。とあります。

今の時代なら化粧品売り場で眉墨ペンシルを購入しますが、千数百年



めながら齋宮寮の齋王さまや女房・女官たちの喜ぶ顔を思い浮かべていたことでしょう。『いつきの里』で、伊勢神宮用に土器を焼いていた村人も、代々引き継いだ家の人々が従事していたと伝

も前のこと。心地よい海風が吹き渡る『いつきの里』で故郷の先人たちは、齋王さまや女官たちの為に黛を焼いていたのでしょうか。

碑は明和町北藤原にあります。海岸堤防のすぐ手前右広場の奥の堤防の下にあり、碑というより標柱です。炭焼きに精を出す村人は、海を眺

え聞いています。

同じように、黛を焼いていた村人も代々引き継いだ家の人々が、従事していた可能性も考えられます。

「神都名勝誌」によると、「御炭山」は、字煙草の一小丘にある。伝え聞くには、黛（まゆずみ）を焼いて齋宮に供したところである。とあります。

「勢陽五鈴遺響」は、「古屋草紙」などは、御炭山は、御墨や壺土器を焼いたところ」としています。

「勢陽俚諺」などには、齋宮に黛を献じ、朝廷に車を牽く牛を献じたことから、この地を藤原と呼ぶことを許されたとあります。

「伊勢名勝拾遺集」には、「神鳳鈔に言う藤原御園が、この地にあったことから、御園山と呼ばれていたものが御炭山に転じたのではないかとあります。

いずれにしても、齋宮が近くにあったことから、後世、齋宮に因んで生まれた伝承ではないかとあります。

多くの地誌に紹介されている御炭山の存在を大切に伝えていきたいものです。

内院にある齋王さまの、お部屋で高貴な方が使われたという鏡に顔を映し、お付きの女官が眉毛を描いている姿を、想像するだけでも、齋王さまに人間らしさ・女性らしさを感じます。

「卜定」という亀の甲羅による占いによって伊勢齋宮となった皇女。

華やかな色とりどりの着物を身に纏う女官たちの中心に真白な十二単姿の齋王さまが、にっこりと微笑む姿が浮かんできます。



お持ちであったのではと、推測されます。

どちらを身に纏われても、長い黒髪とよくお似合いで、嬉しそうな顔をされていたにちがいありません。

業平さまとの逢瀬で知られる恬子内親王も業平さまのお部屋を訪れる前に鏡の前で、眉墨を使っていたのかもしれない。

電気のない時代、密かにではありますが、ほのかな光のなかで、お姫さまは、自分自



身の美しいお姿を再発見されていたのかもしれませんが。鏡が、限られた高貴な方の特別な持ち物であった時代の「まゆずみ」の存在は、齋王として生きる姫にとっても、大きな存在だったでしょう。

鏡の前で「まゆずみ」の化粧をされる頃に、自らの立場を再認識されていたのかもしれませんが。

眉墨は身だしなみ目的以外に、現人神であり規則の多かった姫さまの、大切な持ち物であったように思えてならないのです。

参考文献 里の史跡散歩  
(中部ペン第十四号掲載改訂)





# 語り継ぐ いにしえのロマン

## 訪問場所① やまたいこく 邪馬台国 卑弥呼を訪ねて

### 纏向遺跡（奈良県桜井市）

紀元3世紀半ば、日本は統一されていた。魏志倭人伝に邪馬台国の卑弥呼の話が出ている。卑弥呼とは「日の巫女」ではないのか？つまり「お日さまに祈りを捧げる皇女」かも知れない。となれば、卑弥呼こそわれらの斎王さまの始まり。日本人の伝統ともいえるべき太陽信仰「天照大神」のイメージは卑弥呼からも来ているのではないか。卑弥呼と持統天皇が「天照大神」に結実したのでは？

さまざまな思いを抱きながら纏向遺跡を訪ねてみたい。この遺跡は卑弥呼が住んでいたのではないかとと思われるほど大きい。南北19・2m、東西12・4mほどの建物（約238㎡、72坪）が建っていた（別紙）。これは吉野ケ里遺跡の主祭殿（2・3世紀）の1・5倍になるらしい。まさに卑弥呼の「宮室」にふさわしい規模だ。

東に三輪山、西に二上山、そして南に箸墓（卑弥呼の墓ではないかといわれている）をのぞむ現地に立って、天照大神、そして幾多の斎王様を思い起こしてほしい。

（東谷 泰明）



纏向遺跡（奈良県桜井市）

## 訪問場所② 古代人と鏡 そこに天照がいる

### 黒塚古墳展示館（天理市柳本町）

黒塚古墳は3世紀後半～4世紀前半頃の築造。箸墓古墳（3世紀半ば）の少し後、桜井茶臼山古墳とほぼ同じ時期。34面の鏡（三角縁神獣鏡33面、画文帯神獣鏡1面）が出土。盗掘を免れていたため、ほぼ完全な状態で残存。吉備（岡山）地方の石室工法と近い。

墳では、13種81面の銅鏡が副葬されていたことがわかった。黒塚古墳、桜井茶臼山古墳ともに、卑弥呼の後の大和の大王墓の可能性が高い。

銅鏡、権力と祈りのあかし。そこに、天照がいるのか？

（東谷 泰明）

今年再度発掘された桜井茶臼山古



## 郷土を愛する心

斎王様ゆかりの地である斎宮に生まれ育ち斎王まつりには初回から参加しています。早いもので、二十八回を迎えました。

多忙な仕事を持ちながらの斎王まつりへの活動は正直なところ、何度か活動を辞めようと思ったことがあります。郷土愛と仲間達の、互い同士の励ましあいがある今日に繋がっていききました。地道な努力の結果ですが、年々盛況になる斎王まつりに感慨深いものがあります。

初回からのメンバーとして西川道子さん、新田一子さんたちとともに頑張ってきましたが、初回参加メンバーは、数える程になってしまいました。

た。それでも町内の仲間同士、励ましあって続けております。

若者たちだけではなく年配者の純粋な郷土愛への底力は、存分に誇るべき町である明和町を活気づけてくれると、信じて活動しています。私達の心は、きっと次世代に受け継がれていくことでしょう。

今回訪問した纏向遺跡、黒塚古墳展示館、吉野宮滝は、邪馬台国 卑弥呼や、壬申の乱のはじまりとされている、いにしえのロマン溢れる場所です。

それぞれの故郷を大切に語り継ぎ、活動していきたいものです。

（八田秀穂）





2F から石室をみる図



1F より石室をみる図

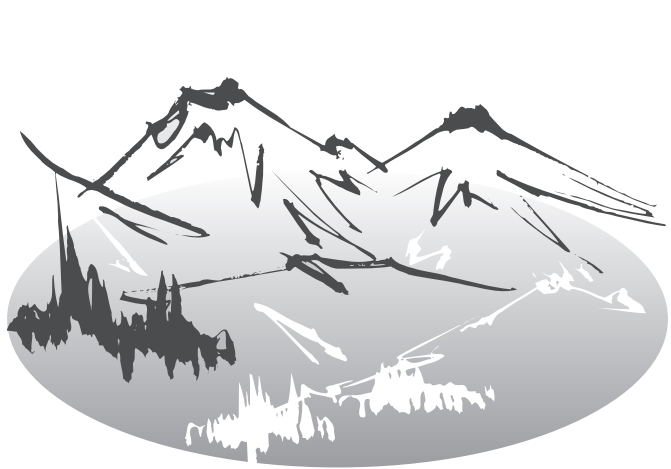


黒塚古墳

訪問場所③ おおあまのみこ  
大海人皇子  
うののさらら  
鵜野讃良は何を思っていたか

吉野宮滝（吉野郡吉野町）

672年6月（旧暦）、いよいよ近江朝廷と大海人皇子との間は、一触即発の状態になっていた。前年の10月17日（新暦11月26日）、近江朝廷を出た大海人、鵜野讃良、草壁皇子、忍壁皇子たちは吉野離宮でその時をじっと待っていた。12月（旧暦）に天智天皇は死去。天下は大きな分かれ目を迎えようとしていた。



6月24日（新暦7月27日）未

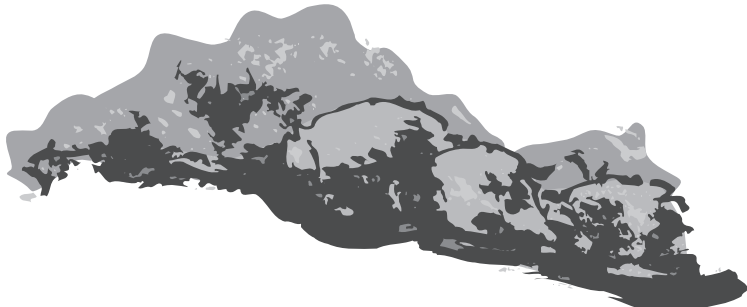
明、大海人一向は舎人20名、侍女十数名で吉野を出立した。宇陀、隠張、伊賀へと進み、大津京を脱出した皇子たちと合流、25日には大勢力となっていた。鈴鹿、不破の関を封鎖してようやく一息ついた大海人は、26日朝、朝明川のほとりで天照大神を望拝した。なんとまる2日ではば勝利が見える体制になっていたのだ。

位した。

宮滝は鵜野讃良にとって、きっと忘れることのできない土地となった。この吉野川を彼女はどんな思いで見つめていたのだろう。持統天皇となった彼女は、在位11年間で31回も吉野を訪れている。

また692年の伊勢行幸、そして命の最後の年701年の三河行幸は、斎宮から伊勢への天照の移動「伊勢神宮の創建」に大に関係する。

持統天皇の波乱の一生。天智の娘として生れてのちの天武に嫁ぎ、姉の子大津を追いやり、わが子草壁は若くして亡くなる。皇位を自分の末裔へと受け継ぐことに執念を燃やしながら、天照大神の居所を定める。そういえばちょうどその頃、自分の居所となる藤原京（690年着工694年遷都）をも造った。天照と持







吉野歴史資料館

# 古代ロマンの ネットワーク

斎王まつりという伝統文化普及活動を継続する原動力は心から湧き上がる郷土愛である。

私には大きな願いがある。斎宮ネットワークを作りたいのだ。斎宮や斎王に縁のある市町村が集い、サミットやシンポジウムなどを開催したいのである。夢ではなく、願っている。

私はいこうと思っている。私の住む町、明和町は斎王制度として六百六十年間姫様が人々の平安を祈るためにお越しになり、住まわれていた地である。祈りへの清浄な思いは、純粹な心の雫となり、伊勢の大地の中に染渡っている。必ずいつか実現へと導いてくれると信じている。都から五泊六日かけて斎王群行した頓宮所在地市町村などにも協力をお願い

したい。

現在、国史跡となった三重県四日市市久留倍官衙遺跡で『久留倍まつり』を開催している久留倍遺跡を考える会のメンバーの方々とも交流が続いている。他の関係市町村の方々にも、この輪が広がることを願っている。

奈良県や京都府は私の住む町、三重県多気郡明和町と本当に縁の深い地がたくさんある。

奈良県桜井市は、四日市とともに、是非姉妹都市になっていただきたい地である。

今回訪れた吉野宮滝（奈良県吉野郡吉野町）は、壬申の乱の始まりの地である。

この地に斎王まつりのメンバーが

立つというのは非常に意味あることである。

六七二年の夏、吉野宮滝（吉野郡吉野町）に、大海人皇子（天武天皇）はいた。これから反乱を起こすのだ。そう思いながら、吉野山の頂に立っていた。

天智天皇の死後、長子の大海皇子（弘文天皇）を擁する近江朝廷に対し吉野にこもっていた皇弟の大海人皇子は周到に準備された計画のなかで壬申の乱を起こした。途中、朝明川の辺で、大海人皇子（天武天皇）は、大照大神に戦勝祈願。この地は、三重県四日市市大矢知町斎宮という。わずか一ヶ月余の激戦の末、大友皇子は自決、大海人皇子は、天武天皇となり、飛鳥浄御原に即位し、律令制が確立する端緒となった。天武天皇は、実の娘である大来皇女を文献上、最初の斎王として斎宮に赴任させている。

吉野宮滝は、古代の歴史のうねりを感じさせてくれる場所である。天武天皇の妻である鸕野讃良（持統天皇）は、在位十一年間で三十一

回も吉野を訪れているという。

持統天皇にとっても、吉野は特別な地であったにちがいない。

持統天皇の心を吉野に吹く風が教えてくれたような研修旅行であった。

近年、奈良県桜井市で発見された纏向遺跡が発生期の大和朝廷の本拠地であると考えられるようになった。纏向遺跡のなかに日本最古の大型古墳である箸墓古墳がある。全長二十七メートルにも及ぶものだ。倭百襲姫を葬ったものと伝えられている。三輪山麓の纏向には、古代ローマンが溢れている。

昨年訪れた斎宮山天神社は奈良県桜井市小夫であるし、今年の纏向遺跡も奈良県桜井市に所在する。纏向遺跡は邪馬台国、卑弥呼の宮殿があるという説もある。

九州説もあるがローマンははてしなく広がる。

桜井市や吉野町の皆様、ともに、いにしえのローマンを語り継ぎ、古代ローマンのネットワークを繋げていきましよう。

（八田明美）





準備作業



実行委員による竹神社お祓い



軽トラック 大活躍



舞台準備



みんなで力をだしあって



後援 民族衣装文化普及協会

図書の紹介

私達の「斎宮」について  
より多くのことを知っていただくために  
―地元で読める斎宮関係図書のご紹介―

凡例  
◎ふるさと会館（図書館）で貸出可 ○ふるさと会館（図書館）で閲覧可  
☆いつきのみや歴史体験館・博物館ミュージアムショップで販売  
◇斎宮歴史博物館図書ホールで閲覧可

「斎宮」の入門書として	郷土の歴史として「斎宮」を知りたい方に	斎王二行の旅した「群行」の道を歩いてみたい方に	「斎王」を小説で読んでみたい方に	「斎宮」や「斎王」について考えてみたい方に
谷口布有緒文 里中満智子画『斎王ロマン 都わすれの詩』明和町◎☆ 中野イツ著『斎宮物語』明和町◎☆ 山川修司著『語り部の竹の斎王語り』近代文芸社◎☆◇ 榎村寛之著『伊勢斎宮と斎王』塙書房☆	奥井宏忠著『別れの御櫛―斎の宮と斎宮寮』光書房○◇ 明和町教育委員会編『郷土史に見る斎王』○◇ 三重の文化財と自然を守る会編『伊勢斎王宮の歴史と保存』○◇ 『同Ⅱ』◇	田畑美穂著『斎王のみち―伊勢斎宮の文化史―』中日新聞本社○◇ 村井康彦監修『斎王の道』向陽書房◎☆◇	内田康夫著『斎王の葬列』角川書店○◇ 池田美由喜著『鷲草―大津皇子とその姉と―』新風舎◇ 郡俊子著『倭姫宮の御巡行』勢陽文芸○◇ 々々『伊勢斎王の恋』近代文芸社◎◇ 々々『哀しみの伊勢大来斎王』近代文芸社◎◇	津田由伎子著『斎王』学生社○◇ 山中智恵子著『斎宮女御徽子女王―歌と生涯―』大和書房○◇ 々々『斎宮志』大和書房○◇ 々々『続斎宮志』砂子屋書房○◇ 々々『斎宮劄記』砂子屋書房○◇ 所京子著『斎王和歌文学の史的研究』国書刊行会◇ 々々『斎王の歴史と文学』国書刊行会◇ 榎村寛之著『律令天皇制祭祀の研究』塙書房◇ 中川ただもと著『斎宮和歌の解釈と鑑賞』紫明の会☆ 服藤早苗著『歴史のなかの皇女たち』小学館☆

第 27 回（平成21年度）斎王まつり実行委員会活動

1月	12日(月) 会計監査 17日(土) 役員会 25日(日) 実行委員会総会	2月	1日(日) 視察研修(長谷～明日香へ) 13日(金) 出演応募者締切 19日(木) 役員会(斎王役他書類選考会) 22日(日) 童・童女出演者説明会(中央公民館) 27日(金) まつり実施班会議 28日(土) 梅まつり用意	3月	1日(日) 梅まつり(斎王・女別当出演) 8日(日) 斎王役選考会(中央公民館)・役員会 19日(木) 役員会 29日(日) 斎宮跡指定30周年記念式典(功績表彰を受ける) 31日(火) 外ヶ江/出演予定者締切	4月	10日(金) 本部会議 15日(水) 外ヶ江/出演者会議・上御糸地区自治会長会議出席(協賛金お願い) 17日(金) 斎王市出店者会議(研修室) 19日(日) まつり実施班作業・斎宮地区自治会長会議出席(協賛金お願い) 24日(金) 全体会議 26日(日) ステージ作業・明星地区自治会長会議出席(協賛金お願い)	5月	2日(土) 大淀地区自治会長会議出席(協賛金お願い) 7日(木) 中勢警備システム打合せ 10日(日) 群行出演者説明会(牛葉公民館) 下御糸地区自治会長会議出席(協賛金お願い) 11日(月) 三重県知事表敬訪問(斎王・女別当・実行委員代表他) 15日(金) 外ヶ江/出演者最終会議 20日(水) 斎王市出店者最終会議 24日(日) 町内のぼり立て 29日(金) 最終全体会議・依頼した出演者説明会 31日(日) ステージ作り	6月	2日(火) 役場職員ボランティア説明会 4日(木) 着付班衣装出し 5日(金) 々々 6日(土) 第27回斎王まつり「前夜祭」 7日(日) 第27回斎王まつり「祓の儀」[斎王群行] 12日(金) 着付班衣装片付け 14日(日) 看板等倉庫へ収納・会議室片付け・ロマンにて打上 19日(金) 衣装出し(いつきのみやへ貸出し) 21日(日) 「斎宮跡」30周年記念式典(保存協会より感謝状授与)	7月	4日(土) 観光協会「安全祈願祭」(斎王・女別当協力) 10日(金) 役員会 18日(土) 「斎宮ふれあいまつり」協力 29日(水) フォトコンテスト一次審査	8月	7日(金) 役員会(フォトコンテスト審査会)(106名 268点出品) 23日(日) フォトコンテスト表彰式・作品展示披露(明和ジャスコ中央特設通路)	9月	10日(木) 役員会(第28回斎王まつりについて) 13日(日) 2009・第29回世界新体操選手権三重大会へ協力(斎王・女官2名) 26日(土) フォトコンテスト作品展示撤去(明和ジャスコ) 30日(水) 臨時総会	10月	3日(土) 「いつきのみや十五夜観月会」女別当協力 13日(日) 2009・第29回世界新体操選手権三重大会へ協力(斎王・女官2名)	11月	4日(水) フォトグラフィ写真展示(百五銀行 斎宮支店11月30日まで) 7日(土) 「斎王の宮」オープンセレモニーに協力(斎王) 「いつきのみや浪漫まつり」協力(斎王・女官) 8日(日) 明星「古道まつり」出演協力 16日(月) 衣装かたづけ 18日(水) 衣装洗濯 役員会	12月	2日(水) 町助成金について(説明懇談) 28日(月) 事務所仕事納め
----	---	----	--	----	---	----	--	----	--	----	---	----	--	----	--	----	---	-----	---	-----	--	-----	--

第28回（平成22年度）斎王まつり実行委員会組織体制

役職名								
本 部	代表 森下 清	副代表 笛川 浩	副代表 田中 貢	副代表 岩佐康則	事務局 野畑久子			
会計監事	久世 晃 浅尾美代子							
顧 問	名誉会長（町長）中井幸充 木戸口眞澄（初代会長） 西場信行 大野秀郎 小田秀雄 大和谷正 辻 正信 辻 丈昭 橋本久雄 山川充造							
相談役	辻 孝雄 北村純一 東谷泰明 森島啓之 西川道子							
小委員会名	任務分担の内容	構成する委員の氏名						
総務班・財務班	総務の実施 財務の実施 グッズ販売・スタンプラリー等 斎王市の実施	◎西村直克	○竹内克巳 八田秀穂	○間宮一彦 原野正之	大西俊次郎 堀木茂生	辻 孝雄 森島啓之	中川裕正 森西捨巳	11
	着付会場内の管理 出演者の移動 記念写真	◎東谷泰明	○北川和樹 中瀬正実	石田豊喜 橋本久雄	奥山憲生	澤 恒一	田端幸男	8
着付班	着付け準備と後片付け	◎新田一子	○清水清子 新谷千恵子 安井澄代	○田中政子 夏井ちはる 菊矢てる子	○西宮幸代 西川美代子 衣斐喜代美	今西明美 服部益子 富山富子	榎本英子 丸山敬子	15
まつり実施班	前夜祭の実施 祓の儀の実施 出発式の実施 群行の実施 社頭の儀の実施 アトラクションの実施	◎関岡武夫	○北岡 泰 ○森田 均 北山房夫 中西修一 辻 満寿美	○北村哲也 ○森菜津子 小林順一 中村好富 永島せい子	○土井祐治 石田藤生 小林邦久 西岡信行 東谷泰介	○西山浩一 伊申金市 佐々木久夫 長谷川新	○早川潤一 亀村定雄 田中真司 清水恵子	24
広報班	ポスター・パンフレット原案作成 広報・宣伝事業計画	◎山内 理	○八田明美	内山克巳	3			



# 群行衣裳



長奉送使【ちようぶそうし】



監送使ともいう。斎王一行を伊勢まで送り届ける群行の最高責任者。沿道における警察権が与えられており、任を終えると直ちに帰京しました。

検非違使【けびいし】

平安時代から室町時代にかけて京中の警察を担当した職。元来、平安京の治安維持は京職や衛府の任であったが、特定の官人に京中の警察を担当させることがあり、それが検非違使となり、やがて衛府や京職・弾正台などの権限を吸収し、王朝国家有数の警察機関となったのである。

看督長【かどのおさ】

検非違使庁の下級職員で、身分は火長。弘仁式制では左右それぞれにつき二人と定めら

隨身【ずいしん】

隨身とは、貴族が外出する際に警護にあたった近衛府の官人を指します。それには高い教養と優美な美貌が求められたと云います。

駕輿丁【かちよう】



斎王の乗る輿（葱華輦）を担ぐ人です。



1. 冠
2. 綾
3. 太刀

斎王【さいおう】

天皇の即位ごとに、未婚の内親王（天皇の娘）あるいは女王（天皇の兄弟の娘など）の中から占いで選ばれ、天皇の譲位や崩御、あるいは肉親の不幸などにより解任されて、都に帰る決まりになっていました。伊勢神宮の祭りには、六月・十二月の月次祭と九月の神嘗祭に関わるのみで、ふだんは斎宮の中で都と同様の生活を送っていたものと考えられています。

古代から中世にかけての文学作品に登場する斎王も多く、『源氏物語』『伊勢物語』など、多くの文献に残されています。

十二単【じゅうにひとえ】

十二単とは近世になってからの呼び名で、正しくは女房装束、または裳唐衣といえます。単衣の上に桂を重ね、打衣、表着の上にベストのような唐衣をはおり、腰には前部のないプリーツスカートのような裳をつけます。貴族の女性の晴の衣裳（正装）です。

髪は垂髪、作り眉。上衣は、上から順に唐衣、表着、打衣、桂、単となっています。

唐衣は衽、衿合わせがなく、上からはおります。表着は上の御衣とも呼ばれる垂領広袖の衿仕立てです。打衣は砒で打って光沢を出したところからこの名があります。形は表衣と同じで紋様はありません。桂は、內衣の意味で、垂領、広袖の衿仕立てで地紋があり、数枚重ねて用います。単は桂と同形ですが、衽、丈ともに長く、単仕立てで裾はひねり仕立てになっています。下衣

には袴と裳をつけます。袴は緋の長袴（若年未婚は濃色）、裳は背にあてて結び、後に長く垂らして引きます。



13番 日陰の糸  
又は玉かずら

1. 垂髪
2. 唐衣
3. 表着
4. 打衣
5. 衣（桂）（枚数を重ねている）
6. 単
7. 長袴
8. 裳（全体）
9. 裳の小腰
10. 裳の引腰
11. 櫛扇（相扇）
12. 貼紙
13. 日陰の糸（玉かずら）

※斎王が付けていたかどうかは定かではありません。



内侍または命婦【ないしまたはみょうぶ】



斎宮で働く女官たちの最高責任者として、乳母や女孺の上にいる立場にありました。

女別当【によべつとう】



内侍や官旨が、斎王の住むエリアで公的性格をもつ仕事をこなす女官であるのに対して、乳母のように、斎王のプライベートな「宮家」としての用向きを担当していたのではないかと考えられますが、詳しいことはわかりません。

乳母【めのと】

母親に代わって養育を受け持つ女性で、斎宮には、斎王個人の「家」に仕える存在として、二名ないし三名が務めるようになっていました。

女孺【にようじゅ】



「めのわらわ」ともいう女官で、一等から三等に分かれており、それぞれに課せられた実務を担当していました。

采女【うねめ】



都では、地方の郡司の娘から選ばれ、天皇の御前などに奉仕していました。しかし、斎宮に采女がいたかどうかについてはよくわかっていません。

童・童女【わらわ・わらわめ】



都の官人が、家族で斎宮に赴任したということも考えられますが、その子供達が斎宮内に住んでいたという可能性はあります。しかし、群行の一員として加わっていたということとはなかったようです。



# 斎王フォトコンテスト

斎王賞



「まなざし」 津市 江 紹价

斎宮歴史博物館長賞



「火起こしの儀」 鈴鹿市 酒井 房子

特別賞



「雅」 甲賀市 舘 治雄

特別賞



「微笑み」 津市 野末 園

特別賞



「襖に向う」 志摩市 松井 文郎

特別賞



「襖を前にして」 伊勢市 井村 義次

特別賞



「歓声」 松阪市 戸川 明

明和町教育長賞



「斎王と子供斎王」 伊勢市 島田 てるみ

町長賞



「菖蒲を手」 明和町 井上 清一

明和町議会議長賞



「襖の儀」 松阪市 山下 和英

## フォトコンテスト

●応募方法  
・応募には郵送と斎王まつり事務所受付の2通りがあります。  
・応募作品は応募者本人が撮影したもので1人3点以内、未発表の作品に限ります。  
・カラー、白黒作品でサイズは四ツ切のみ  
・応募票の各項目に楷書で記入し、題名、お名前には必ずふりがなをつけてください。  
・応募作品の裏面に応募票を貼付してください。(コピーも可)

●締切  
・平成22年7月16日(金)消印有効

●郵送方法について  
・郵送中の事故、破損については責任を負いかねます。

●選考方法・入賞・入選  
・作品は斎王まつり実行委員会にて選考いたします。

・入賞は、5賞(斎王賞他)、入選20点程度とします。  
・発表は、8月5日前後、新聞紙上にて発表します。

・入賞・入選作品については、改めてネガをお借りすることがあります。  
・パンフレットやポスター、ホームページなどへの使用権は主催者に帰属します。

●作品の返却  
・応募作品はご返却いたしません。

●応募先  
斎王まつり実行委員会「フォトコンテスト」係

◆応募・問い合わせ先

〒515-0321

三重県多気郡明和町斎宮2811番地

斎王まつり実行委員会事務局

電話 0559615522 1702075 44

FAX 0559615522 1702075 44





第25代齋王役  
鳥井 麻生

## 齋王役を務めて

前夜祭の興奮も冷めぬまま、期待と緊張でドキドキしながら迎えた齋王まつりの日は、とてもさわやかな快晴に恵まれました。実行委員会の方々と、楽しみにして来ていただいている皆様や、参加者の願いが通じたのでしょうか。

私は十二単が着たくて齋王まつりに参加を申し込んだので、憧れの十二単に袖を通した時の感動は今でもはつきり覚えてます。禊の儀を目前に不安いっぱい私の私を、「大丈夫」と送り出してくれた実行委員の方々、会場の皆さまの笑顔や声援にとても励まされました。

齋王群行では、手を振って下さる方、「齋王さん！」とあたたかい声をかけてくださる方に囲まれ、嬉しくて緊張も吹っ飛んで心からおまつりを楽しみました。

明和町という、歴史にも温かい人々にも恵まれた地で、「生忘れられない経験」をさせてもらって、素敵な方々の笑顔に出会えたことは、私の大事な思い出です。

今年も、来年も、その先もさらに素敵な「齋王まつり」に盛り上がっていくことを心から祈っています。



子ども齋王  
田所 藍耶

## 子ども齋王を務めて

齋王まつりで一番ドキドキして、嬉しかったことは、開会せんげんをしたことです。とてもきちんとしましたが、うまく言えてホッとしました。

子ども齋王役は、取材やインタビューがあつてすごくびっくりしましたが、いい思い出になりました。

子ども齋王のあたりクジは、今でも大切にしておいてあります。



葱華輦復元模型(齋宮歴史博物館蔵)

## 語り継ぐ いにしえのロマン

齋王まつり実行委員会 代表 森下 清

齋王制度は、飛鳥時代(六百七十三年)天武天皇が伊勢神宮に「壬申の乱」の戦勝祈願をして勝つことができたことに感謝して、天皇家の御杖代として長女の大来皇女をここに「齋宮」に遣わし、それから約六百六十年間続いた制度でした。都から五泊六日をかけ、齋王二行は「齋宮」まで群行してきたのです。そして、五十数代の齋王やこの地に関わった人々を偲び、「齋王まつり」は始まりました。まつりの群行は、一番華やかだった平安時代の群行を再現したものです。

野花菖蒲が咲く初夏、齋王まつりの季節がやってきます。今年は、前夜祭で夜の禊を行います。

齋王まつりも「語り継ぐ いにしえのロマン」をタイトルに未来に向かう新しい群行の出発にしたいと思います。

全国からたくさんの人々がここに「齋宮」に集い、ふれあえるすばらしいまつりになればと願っています。



## 主催／齋王まつり実行委員会

後援◎明和町、明和町教育委員会、国土交通省三重運輸支局、齋宮歴史博物館、(財)国史跡齋宮跡保存協会、(財)民族衣裳文化普及協会、明和町観光協会、近畿日本鉄道株式会社、NHK津放送局、三重テレビ放送(株)、三重エフエム放送(株)、松阪ケーブルテレビ・ステーション(株)  
問い合わせ◎齋王まつり実行委員会事務局 TEL0596-52-0054FAX0596-52-7274